

日田市立博物館基本構想

目 次

1. 日田市立博物館の概要	1
1) 現博物館の設置された経緯	1
2) 現博物館の位置	1
3) 現博物館の構造	1
4) 現博物館の収蔵資料	1
5) 現博物館の入館者数 5 年ごとの推移	2
6) 市外者の入館割合	2
7) 現博物館の運営体制	2
8) 現博物館の事業内容	2
2. 現博物館の課題	4
1) 施設の課題	4
2) 展示機能の利便性に関する課題	4
3) 標本資料の保管・整理に関する課題	4
4) 専門学芸員に関する課題	5
5) 博物館事業に関する課題	5
3. 基本構想の策定にあたって	6
4. 新博物館の活動方針	7
1) 日田市が目指す博物館像	7
2) 博物館が目指す活動内容	8
5. 新博物館の目指す整備の概要	11
1) 整備の方向	11
2) ソフト面としての整備	11
3) ハード面としての整備	12
4) 博物館の構成	14
5) 建設予定地の立地環境	14
6. 新博物館の管理運営方針	15

1. 日田市立博物館の概要

1) 現博物館が設立された経緯

昭和 27 年、市民団体により日田市に博物館を建てようとする運動がはじまり、翌昭和 28 年、大分県林業試験場内に八女市の原田植物園から譲渡を受けた剥製・標本類を中心とした日田博物館が開館しました。

その後、市民から市立博物館の建設を望む声が高まる中、博物館の展示物については大分県林業試験場(日田博物館)に保管されていた剥製・標本類の多くを大分県より譲渡され、市民などより昆虫・植物・鉱物・考古・民俗資料などの寄贈を受け、資金面では井上家教育振興会からの寄付を頂き、市制 20 周年・淡窓没後 100 周年記念事業の一環として、昭和 35 年 12 月、日田市立博物館が開館しました。

昭和 39 年 3 月、博物館法に基づく博物館相当施設として、国の指定を受け今日に至っています。



開館当時の博物館(正面)



開館当時の博物館(ワニの剥製)

2) 現博物館の位置

日田市三本松 1 丁目 11-24 番地

当初成宜園敷地内に図書館と併設し建てられる予定でしたが、最終的には旧中央公民館南側のあき地に建設されました。

3) 現博物館の構造

基礎はブロック積み、上部は軽量鉄骨 2 階建て。1・2 階に展示室、1 階に倉庫 1 部屋・事務室 1 部屋・トイレ、2 階に倉庫 1 部屋。(昭和 39 年、事務室が狭いことから博物館東側に現事務室を増設)

博物館敷地面積 345 m² 博物館建物面積 269 m²(展示室面積 172 m²・事務室 27 m²・昆虫標本収蔵庫(2 階倉庫)4 m²・1 階倉庫 7 m²・その他 59 m²)

4) 現博物館の収蔵資料

資料名	点数	保管場所
昆虫標本	8, 141 (230 ケース)	2 階収蔵庫
植物標本	約 3, 000 (30 箱) 整理中	2 階展示室・大山振興局会議室
鉱物標本	約 1, 400	大山振興局会議室
貝・カニ類標本	1, 264	埋蔵文化財センター倉庫
剥製・液浸標本	102	埋蔵文化財センター倉庫

5) 現博物館の入館者数 5 年ごとの推移

年度	入館者数	開館	日平均	年度	入館者数	開館	日平均
昭 35	14,129	95	149	61	2,451	296	8
36	23,822	299	80	平 3	2,471	296	8
41	19,335	300	64	8	2,024	301	7
46	11,257	303	37	13	2,088	297	7
51	6,937	279	23	18	1,505	299	5
56	5,199	298	17	21	2,360	307	7

6) 市外者の入館割合

年度	入館者数	市内	市外	市外者の割合
20 年度	1,864	1,510	354	19%
21 年度	2,360	2,000	360	15%

7) 現博物館の運営方式と体制

- ・ 運営方式－市直営
- ・ 運営体制－市職員(館長 1 名・事務職 1 名・臨時職員(学芸員補助者 2 名))

※ 諮問機関として博物館協議会を設置

協議会委員(市民有識者・小中学校理科主任代表 10 名以内)

8) 現博物館の事業内容

(1) 展示事業

- ・ 特別展の開催

平成 7 年度、日田市埋蔵文化財センターが設立されたことをきっかけに、博物館は自然史中心の博物館となり、平成 8 年度から郷土日田の自然調査会や博物館協議会の協力のもと、自然調査などで明らかとなった日田の自然や生き物などを紹介する特別展を開催してきました。

(主な特別展)

平成 11 年度「昆虫特別展」 10 月 7 日～26 日

平成 12 年度「日田市南部地域の自然展」平成 12 年 10 月 6 日～13 年 3 月 31 日

平成 14 年度「野鳥展」平成 14 年 7 月 15 日～12 月 24 日

平成 15 年度「日田市東部地域の自然展」平成 16 年 1 月 17 日～6 月 30 日

平成 16 年度「日田市の常緑広葉樹林展」平成 16 年 7 月 20 日～17 年 3 月 31 日

平成 18 年度「岩石鉱物標本展」平成 18 年 7 月 15 日～12 月 28 日

平成 19 年度「大鶴夜明地域の自然展」平成 19 年 10 月 4 日～平成 20 年 3 月 31 日

平成 22 年度「上津江町の自然環境展」平成 22 年 10 月 2 日～12 月 25 日

- ・ 企画展の開催

博物館構想の検討を進める中で、平成 20 年度より市民に博物館への関心を高めても

らうため、自然のほか歴史、文化、産業なども交えた企画展を開催してきました。

- 平成 20 年度 「日田下駄展」平成 20 年 7 月 22 日～8 月 31 日
「宇宙の神秘展」平成 20 年 11 月 22 日～12 月 25 日
平成 21 年度 「昔と今の鍛冶屋さん展」平成 21 年 4 月 25 日～5 月 31 日
「長金治さんと絶滅危惧種展」平成 22 年 2 月 28 日～4 月 4 日
平成 22 年度 「川の文化と海の文化展」平成 22 年 7 月 3 日～8 月 1 日



上津江町の自然環境展の様子



川の文化と海の文化展の様子

(2) 自然教室

自然教室は、博物館の展示と併せて市民が自然により深く関心を持ち、その大切さを見直してもらうため、昭和 36 年から自然保護団体や博物館協議会の協力のもとにはじめられた事業で、毎回多くの参加者で賑わっています。

夏休み小中学生植物昆虫採集会(昭和 36 年度～郷土日田の自然調査会指導委託)

夏休み小中学生植物昆虫同定会(昭和 36 年度～郷土日田の自然調査会指導委託)

小中学生自然研究作品展(昭和 36 年度～)

自然観察会(昭和 36 年度～／春・秋の年 2 回～日田自然愛好会委託)

探鳥会(昭和 52 年度～／春・秋・冬の年 3 回～日本野鳥の会日田地区支部委託)

星空観望会(平成元年度～／春・夏・冬の年 3 回～日田天文同好会委託)

昆虫教室(平成 8 年度～／通年～日田昆虫同好会委託)

野外教室(平成 20 年度～／市内の小中学校などへ出向いた出張講座・出張展示)

科学実験教室(平成 21 年度～／ひた少年少女発明クラブ等による指導)

地質探検教室(平成 21 年度～／日田自然愛好会委託)



昭和 36 年 第 1 回植物・昆虫採集会



昭和 36 年 第 1 回自然研究作品展

2. 現博物館の課題

1) 施設の課題

博物館は、昭和35年12月に開館して以来50年を経過し、建物の一部に亀裂が入るなど老朽化が進んでいます。

また、博物館2階への階段は急でありエレベーターなどもなく、お年寄りや障がい者の方が見学できない場合があります。また、トイレも男女共用が一つしかなく不便であり、駐車場も狭く、事業の際に来館者が車を駐車できないなどの支障があります。

- ・ 施設の老朽化・非常口がない→危機管理対策が充分とはいえない。
- ・ エレベーターがなくトイレや駐車場が少ない→来館者の利便性が悪い。

2) 展示機能の利便性に関する課題

博物館の展示室はスペースが狭いため、学校や団体などが一度に入って展示説明を受けることができず、また温湿度調整機能が備わっていないことからカビが生えるなど管理が十分でないために、他の博物館などから貴重な資料の借用展示ができない状態です。

また、博物館の展示ケースは当時のままの据付ケースと移動式ケースがありますが、据付ケースは大きな展示物が入らず、移動式ケースも展示品を置く高さが高いため、展示ケースとしての機能性に欠けています。

展示室の照明器具は蛍光灯ですが、蛍光灯は熱を発生するので、1月以上にわたって昆虫・植物などの標本を展示すると、変色・劣化が進むため、長期間の展示ができない状態です。

- ・ 展示室が狭く、温湿度調整ができない→利便性に関し、資料の長期間にわたる展示ができない。他の博物館等より貴重な資料を借りて展示することができない。
- ・ 展示ケースが古く、利便性に欠ける→来館者に展示品を十分に見てもらえない。
- ・ 照明器具が博物館の展示に適していない→標本資料を傷める場合がある。

3) 標本資料の保管・整理に関する課題

博物館は、建設当時から施設が狭く、資料を陳列し展示するだけのスペースしか備えていなかったため、標本資料などを保管する収蔵庫や整理するための作業室がありませんでした。その後、市民から自然・考古・民俗資料の寄贈が相次ぎ、旧市民会館裏倉庫や旧養護学校跡地など空き施設を急遽収蔵庫代わりに利用してきました。現在も昆虫標本資料を除くと、博物館外の施設に保管しており、それらの資料の整理についても館外で行っている状況です。

また、保管場所には温湿度装置などが設置されていなかったために、多くの資料が劣化してきています。

- ・ 収蔵施設がない→埋蔵文化財センター・大山振興局会議室などに資料を仮保管せざるを得ず、その保管場所には空調施設も完備されていないため資料の管理が十分できない。
- ・ 資料整理作業室がない→館内で標本などの資料整理を行なうことができず、標本資料の移動や職員の移動等が必要となるため効率が悪い。

4) 博物館活動に関する課題

博物館が開館した当時は自然史専門の学芸員(市職員)1名を配置し、標本整理や資料の管理、展示などの博物館活動を行ってきましたが、昭和41年3月以降は不在となり、その後は博物館協議会委員や市民有識者が中心となって博物館活動を支えてきました。

しかし、市民有識者も高齢化が進み、専門的知識を有する若い人材が不足するなど、将来的に博物館活動を進めていくことが困難な状況となってきました。

・ 専門学芸員がない、市民有識者の高齢化、専門的な知識を持つ若い人材が不足→博物館活動が将来的に困難になることが予想される。

5) 博物館事業に関する課題

博物館では昭和36年以降、自然保護団体に委託し、各種事業を毎年行っています。それぞれ参加者が多く一定の成果をあげていますが、探鳥会など一部の事業では、情報発信や学校との連携の不足もあって、子どもたちや若い市民の参加が少ない事業もあります。

事業ごとの大人と子供の参加人数

	事業名	18～21年度の合計		4年間の合計	1年間の平均
		大人	子供		
子供対象	植物昆虫採集会	71	241	312	78
	植物昆虫同定会	79	400	479	119
	昆虫教室	15	245	260	65
	科学・地質教室	40	138	178	178
一般対象	自然研究作品展	656	654	1,300	325
	星空観望会	222	198	420	105
	探鳥会	222	14	236	59
	自然観察会	459	23	482	120
	計	1,764	1,913	3,677	919



探鳥会(千倉ダム)



昆虫教室(龍体山)

※子どもは高校生以下

※植物昆虫採集会・同定会は小中学生対象(大人は同伴した人の数)

※作品展は小中学生の自然研究作品。人数は来館者を対象

※昆虫教室は子ども対象(大人は親子ホテル観察会の人数)

※科学実験教室・地質探検教室は小学生対象 21年度(大人は子どもと同伴して保護者が参加した人数)

・ 情報発信や学校との連携の不足及び魅力的な事業が少ない→若い世代や子どもたちの参加が少ない。

3. 基本構想の策定にあたって

博物館は開館以来、市民や自然環境保全団体の協力を得ながら、日田市の自然環境をテーマとした事業活動を行なってきました。また、近年、自然環境問題が注目を集めるようになり、市民の自然環境に対する関心は一層の高まりをみせています。

一方、博物館を支えてきた市民団体の高齢化や博物館の老朽化も著しく、博物館が市民の学習意欲に応えられるよう今後充実した活動を進めていくためには、以下のとおり体制作りも含めた見直しを行なう時期を迎えています。

今日、野生生物や生息環境、生態系全体のつながりを含めて自然環境の保全を図ることを目的とした「生物多様性基本法」が制定される中で、新たな博物館では、市民が人と自然との関わりについて気づき、関心を抱かせる展示や自然環境学習などの事業活動を行うことが求められています。また、市民が自然環境への理解を一層深め、次の世代に自然環境保全の大切さを伝えられるよう取り組みを進めていくことも必要です。

また、子どもたちの理科離れが進む中において、学校の授業だけではなく、博物館で「自らが進んで学び・体験をすること」を通じて自然や科学に興味を持つ子どもたちの育成を図っていくことは、社会教育施設として博物館が果たすべき重要な役割の一つです。

さらに、自然環境についての市民の「学び」の多様化が進む中で、博物館には専門的な知識を持った人材が備わり、市民に協力できる体制が期待されています。

このほか、自然環境や生物多様性の保全を普及啓発するためには、自然環境を調査し、資料の整理・研究を行い、その成果を情報発信する必要があります。また、調査で得られた資料や市民から寄贈を受けた貴重な資料が劣化しないよう大切に保管するための施設も必要です。

こうしたことを実現するために、日田市ならではの自然史博物館の整備構想を策定するものです。

【新たな博物館にもとめられるもの】

1. 見やすくわかりやすい展示
 - ・展示機能の充実
2. 自然環境学習の推進や自然環境保全に向けた普及啓発活動
 - ・市民が自然環境学習に関心を持ち積極的に参加するような事業活動を推進する。
 - ・生物多様性や自然環境保全に向けた普及啓発
3. 自然や科学に関心を持つ子どもたちの育成
 - ・学校と博物館が連携を図り、カリキュラムの都合上できないような自然や科学分野の体験学習を博物館で行なうことによる、自然や科学に関心を持つ子どもたちの育成。
4. 市民の「学び」に協力できる体制づくり
 - ・専門知識を持つ学芸員の確保とともに、博物館活動に積極的に参加する市民ボランティアの育成。
5. 自然調査研究活動とそれにもとづく情報発信
 - ・市民の自然環境保全への理解につながる自然環境調査と資料の研究活動、及びその成果を市民に公開するための情報発信
6. 資料の適正な管理
 - ・収蔵庫の設置

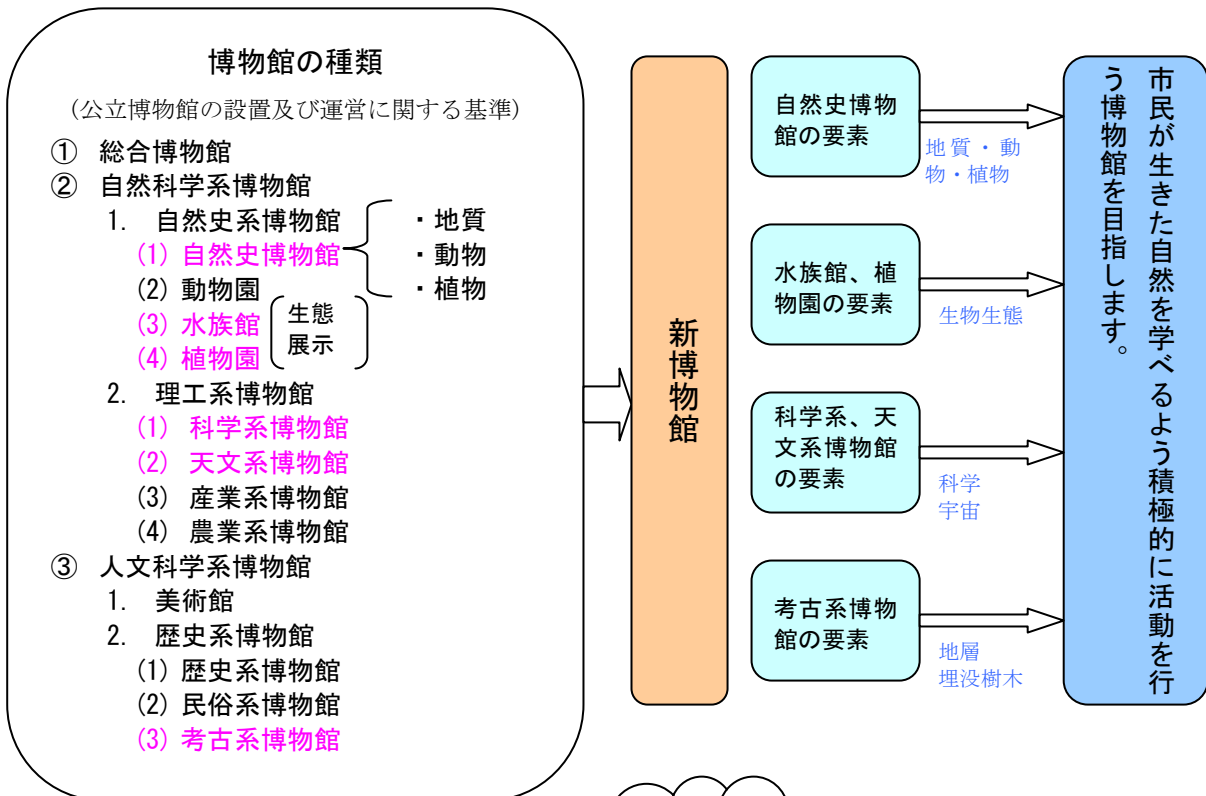
4. 新博物館の活動方針

1) 日田市が目指す博物館像

博物館の種類は下図に示すように、①総合博物館②自然科学系博物館③人文科学系博物館に大きくわけることができます。

新たな博物館では、自然科学系博物館に属する自然史博物館が扱う地質・動物・植物など自然界を構成する要素を中心に、水族館や植物園などが扱う生態展示も取り入れます。また、理工系博物館に属する科学系博物館の要素である科学に関連した展示や天文系博物館の要素である天体・宇宙に関する展示も行ないます。合わせて、人文科学系博物館に属する考古系博物館の要素である大昔の地層や小野地区で発見された埋没樹木などの展示も行います。

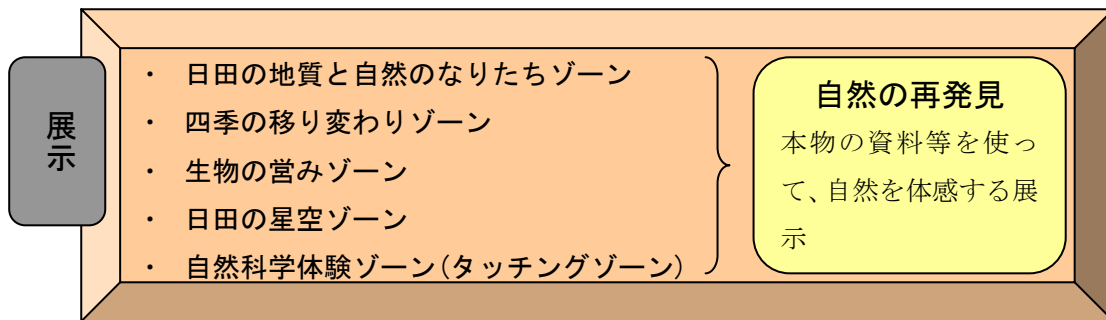
このように新たな博物館は、従来の自然史を中心として、生物の生態や科学、宇宙、考古などの分野も新たに取り入れ、市民が生きた自然を学べるよう積極的に活動を行う博物館を目指します。



2) 博物館が目指す活動内容

1. 自然の再発見(見やすくわかりやすい展示)

新たな博物館では、日田の地形や自然のなりたち、四季の移り変わり、生物の営みなどの展示を通じて自然の豊かさを再発見し、また実際に展示物に触れたりすることにより、自然を体感できる機能を持った施設の充実を目指します。



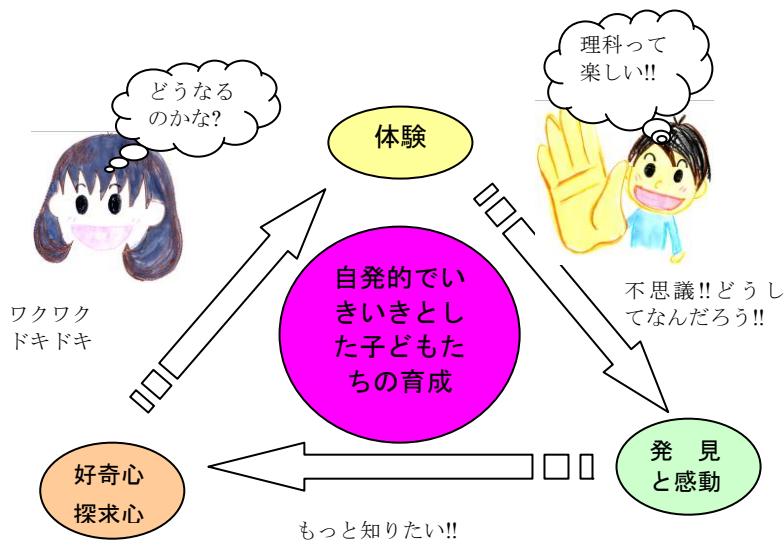
2. 自然と人への思いやり(自然環境学習の推進と自然環境保全に向けた普及啓発活動)

自然の雄大さやいのちの大切さに気づき、自然を通して人と人が「互いに学び合う」楽しさを市民が共有できる自然環境学習を展開していきます。

また、自然や生物の保護・棲息環境の保全などに市民が積極的に関わりを持つ普及啓発活動を行います。

3. ワクワク・ドキドキ(自然や科学に関心を持つ子どもたちの育成)

多彩な体験教室を開催し、子どもたちに自然や科学に対する発見や感動を与え、本来持っている好奇心や探究心を導き出すことによって、自発的でいきいきとした子どもたちの育成に取り組みます。



鉱物を採集し喜ぶ子どもたち

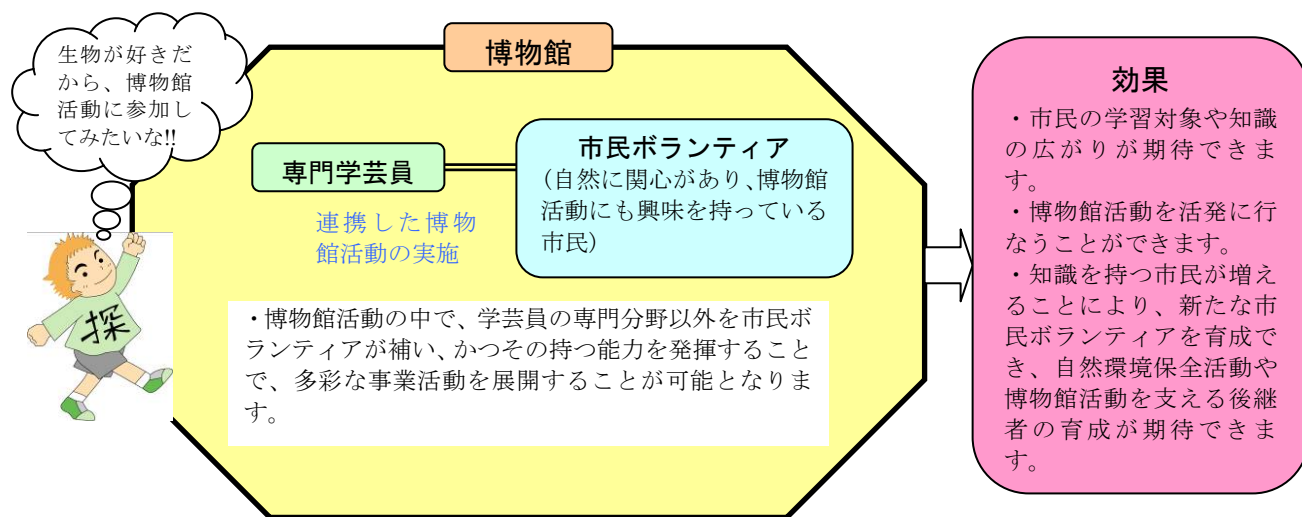


試験管に雪を降らせる実験

4. 市民参加の館(市民の「学び」に協力できる体制づくり)

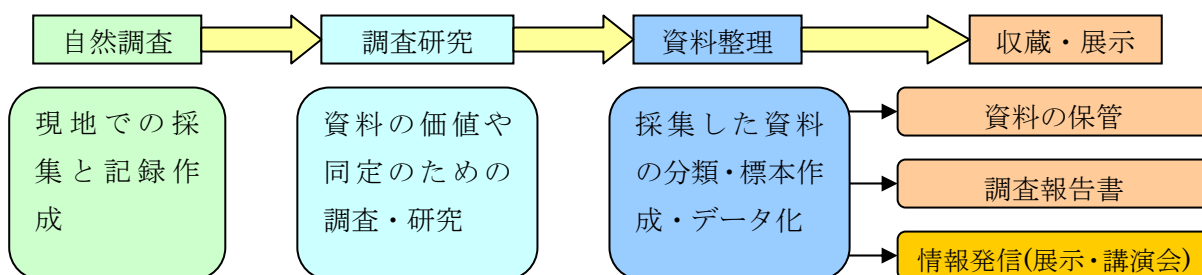
市民の学習意欲を増進させ、博物館の持つ機能や活動を高めていくために、自然を専門とする学芸員を中心とした博物館運営を目指します。

また、市民自らが積極的に博物館活動に参加し、自らの知識を広げるとともに専門学芸員を補佐しながら自然環境学習などの支援を行なう市民ボランティアを育成することで自然環境保全活動や博物館活動を支える後継者を育てていきます。



5. 自然界の様子を探る(自然調査研究活動と情報発信)

市域における自然環境調査を行い、得られた資料の調査研究を進め、資料を整理することにより明らかとなった成果を市民が享受できるよう積極的な情報発信を行ないます。



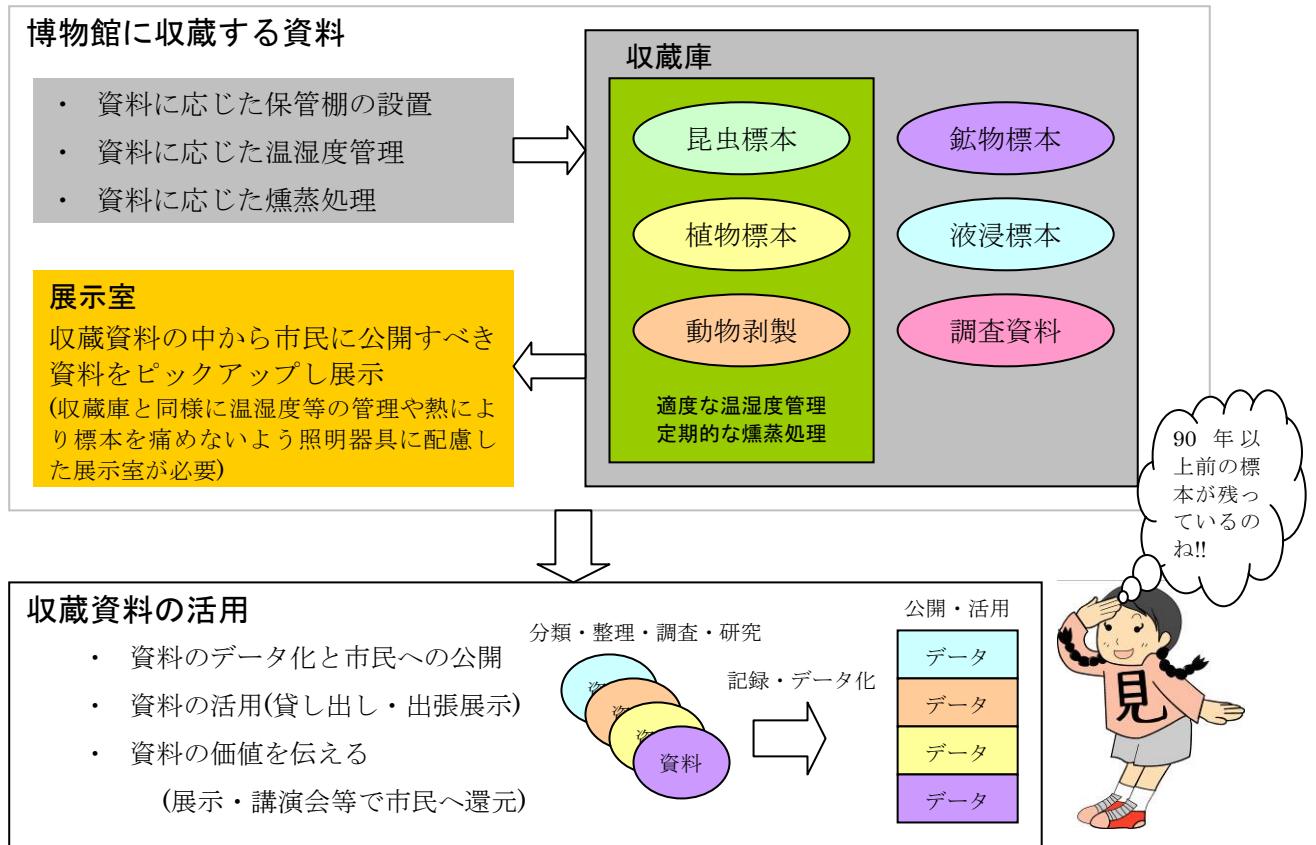
ホタルの棲息状況調査の様子



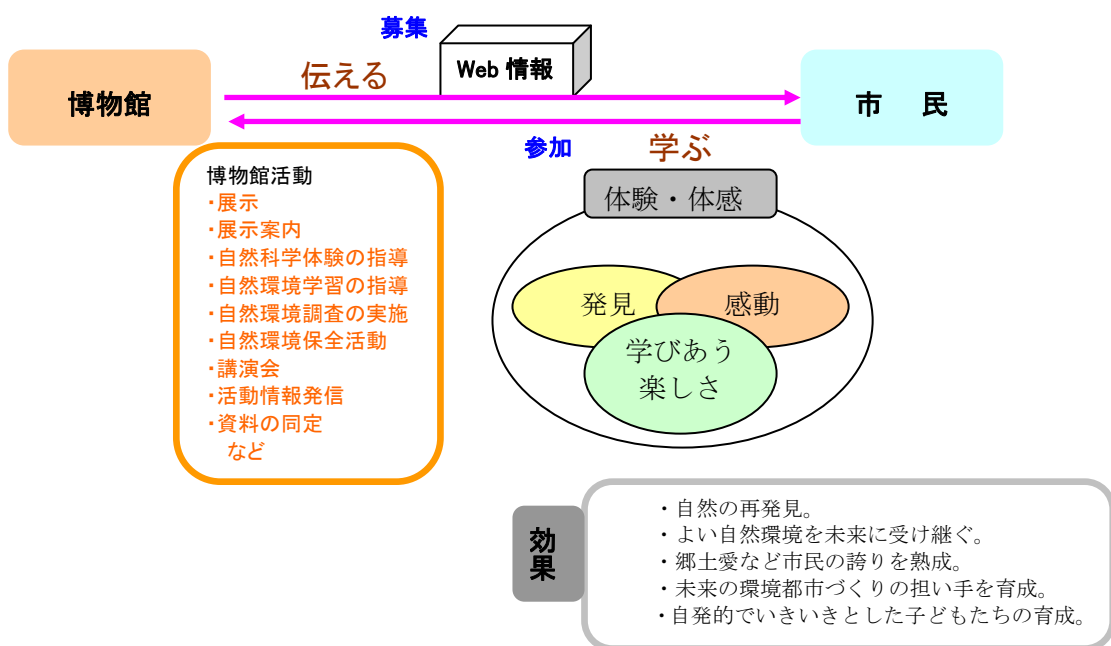
鳥類棲息調査(バンディング)の様子

6. 自然のタイムカプセル(適正な資料の管理)

市の自然環境の変化を知る上での基礎資料となる植物・昆虫・鉱物の標本などのほか、調査によって収集される資料を後世に残していくために、収蔵庫を設置し保存管理に努めます。



博物館活動のイメージ図



5. 新博物館の目指す整備の概要

1) 整備の方向

今日までの博物館に備わっていなかった収蔵施設や展示機能等を充実させるとともに、活動方針に基づく博物館活動を推進していくための整備を行います。

2) ソフト面としての整備

① 展示物の充実

市民が展示を通じて自然の豊かさを再発見し、自然を体感できるように**展示物の充実**を図ります。



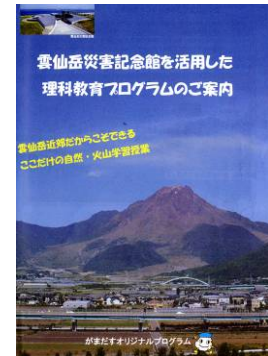
生きた昆虫や花を展示する花昆虫館の展示室(大分農業公園内)



たくさんの昆虫標本が並ぶ倉敷市立自然史博物館の展示室

② 市民を対象とした自然環境学習プログラムの作成

博物館で今日まで行ってきた自然環境学習をさらに充実させ、市民が自然とふれあうなどの体験を通じて「互いに学び合う」楽しさを共有できるよう学習活動を推進していくために、**自然環境学習プログラム**を作成します。



雲仙岳災害記念館が作成しているオリジナルプログラム

③ 子どもを対象とした自然・科学体験プログラムの作成

学校と連携して、子どもたちが体験を通じて自然や科学の不思議やものづくりの楽しさや感動を体験してもらうことを目的とした、子どもたち向けの**自然科学体験プログラム**を作成します。



科学実験教室(葉脈標本づくり)の様子

④ 市民ボランティアの育成

市民が博物館活動に積極的に参加し、学芸員を補佐して一緒に事業の遂行にあたる支援を行うとともに、その中から自然環境保全活動や博物館活動を支える後継者を育てていくための**市民ボランティア**を募集し、育成します。



ボランティアによる木工品づくり体験教室(島根県立自然史博物館)

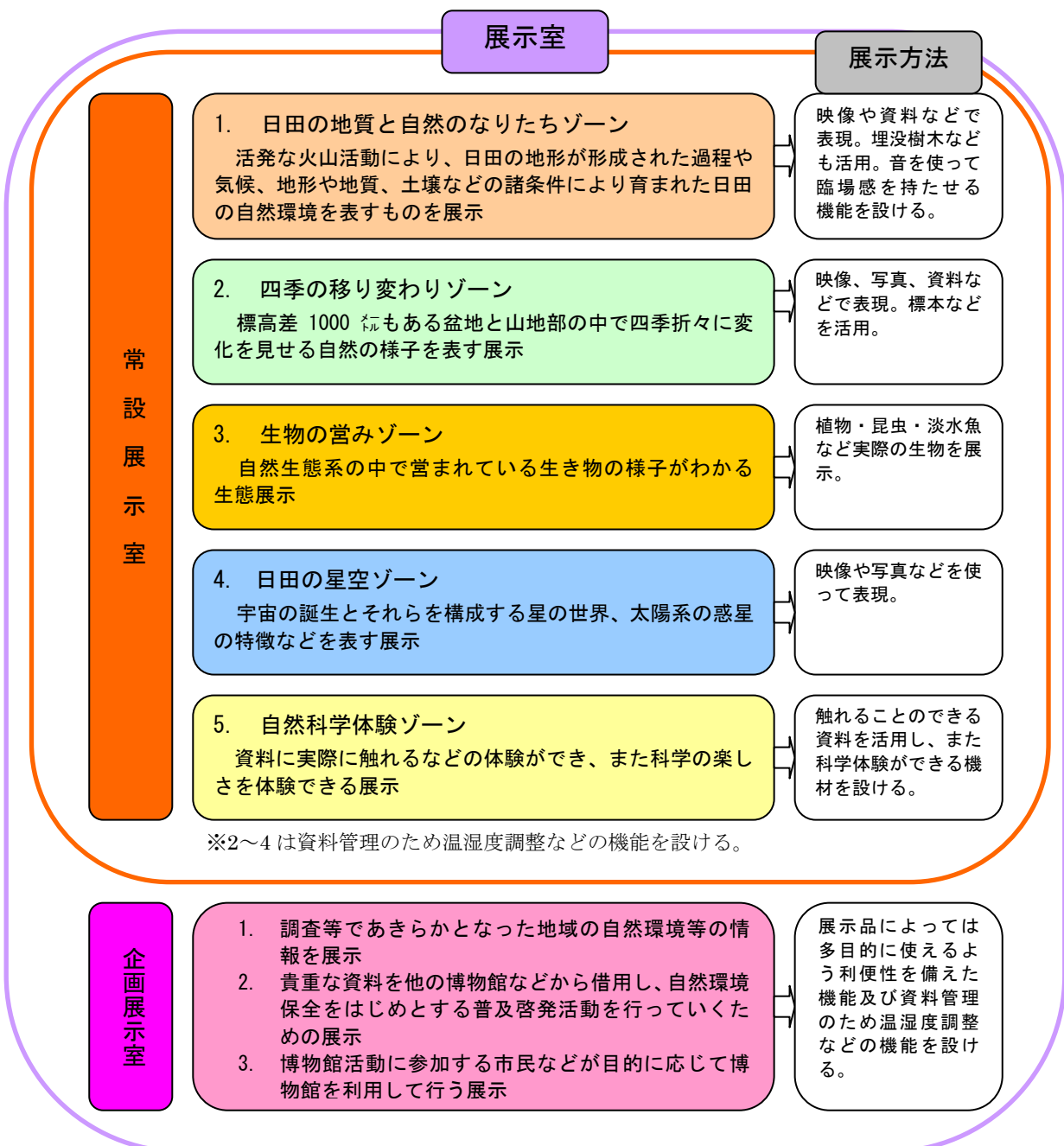
3) ハード面としての整備

① 展示室の設置

宇宙の誕生とそれらを構成する星の世界、活発な火山活動により現在の日田が形成されるに至る過程や日田の地形的条件により育まれてきた自然環境、標高差 1000m もある盆地と山地部の中で四季折々に変化を見せる草花などが表す自然の姿、自然の中で暮らす生命の営みなどを来館者が展示を見たり、音や声を聞いたり、モノに触れたりしながら体感できるような機能をもった常設展示室を設置します。また、調査等であきらかとなった地域の自然環境等の情報、貴重な資料を他の博物館から借用し、自然環境をはじめとする様々な普及啓発活動などを行っていくための企画展示室を設置します。



縄文時代の埋没樹木を展示している島根県立自然史博物館の展示室



② 体験学習室(兼講座室)の設置

来館する市民が専門家の話を聞くなどの学習を通して自然の大切さを学び、子どもたちが体験を通して自然科学の楽しさを学ぶための**体験学習室(兼講座室)**を設置します。



吉岐市立一支国博物館の体験学習室

③ 市民ボランティアルームの設置

市民ボランティアが博物館活動に参加し事業を遂行するための作業場や会議室及び自然環境調査を通じて得られた資料の整理を行なうための場として**ボランティアルーム(兼資料整理室)**を設置します。



倉敷市立自然史博物館の博物館友の会ルームの様子

④ 収蔵庫の設置

今日まで博物館に市民などから寄贈されてきた剥製や標本資料及び今後調査によって採集される生物や標本を保存管理するための**収蔵庫**を整備します。



倉敷市立自然史博物館の収蔵庫／(左)植物標本整理棚(右)鉱物標本整理棚

⑤ 情報コーナーの設置

市民が気軽に博物館に関する雑誌や昆虫・植物の図鑑、専門書などを見たり、博物館の収蔵資料を検索したり、あるいはインターネットなどで知りたい情報を調べ、さらにはDVDなどを使って自然の様子を学ぶことができるよう**情報コーナー**を設置します。



倉敷市立自然史博物館のインフォメーションコーナーの様子

4) 博物館の構成

これまでの博物館では不十分であった施設を整備し、さらに博物館活動を積極的に果たしていくために館内施設を以下のとおり整備します。

施設名	必要面積	現博物館の面積	備考
常設展示室	460 m ²	86 m ²	日田の地質と自然のなりたちゾーン 80 m ² 四季の移り変わりゾーン 100 m ² 生物の営みゾーン 100 m ² 日田の星空ゾーン 80 m ² 自然科学体験ゾーン 100 m ²
企画展示室	80 m ²	—	
体験学習室(兼講座室)	100 m ²	86 m ² (2階展示室)	
情報コーナー	30 m ²	—	図鑑や全国の博物館図録・DVDなど
ボランティアルーム (兼資料整理室)	40 m ²	—	標本作製等
収蔵庫	250 m ²	4 m ²	(他施設に保管している面積約 75 m ²)
事務室	40 m ²	27 m ²	
トイレ	50 m ²	4 m ²	身障者用トイレ含む
倉庫	30 m ²	3 m ²	機材(天体望遠鏡等)
エントランス	100 m ²	32 m ²	
通路・空調機械室・入り口等	75 m ²	—	

計 1,255 m²

5) 建設予定地の立地環境

多くの市民が博物館に来館し、博物館が目指す活動を進めていくためには、いくつかの要件を満たしておくことが必要となります。

(1) 自然環境学習を行うために最適なフィールド

博物館では、自然を対象とした環境学習を推進する観点から、移動に時間をかけずに、近くに自然観察や体験を行うことのできる場所が望まれます。

(2) 市民が利用する上で最適なフィールド

お年寄りや子どもたちが気軽に博物館に来館するためには、ある程度交通の利便性が高く、図書館や市役所、パトリア日田などのように市民が利用する施設の近くが望まれます。

(3) 駐車場の整備

博物館には、十分な駐車場の確保が望まれます。

※現在博物館が利用している場所と事業

亀山公園－バードウォッチング・昆虫教室

萩尾公園－バードウォッチング・星空観望会・小中学生植物昆虫採集会・昆虫教室

6. 新博物館の管理運営方針

博物館の維持管理は市が直営で行い、運営については学芸員の専門的知識を十分生かした自然環境学習プログラム、自然科学体験プログラムなどの作成やわかりやすい展示を行うなどの博物館活動を推進するほか、市民ボランティアを募集し、博物館活動をサポートする体制を整えます。

また、博物館活動を活発に進めていくために、自然環境保全団体のほか、大学・専門機関や学校・育友会代表などの有識者を集めて、専門的立場や来館者の観点を踏まえて意見をのべる博物館協議会を設置します。

【博物館運営のイメージ図】

